

★★★「憧れの人を見つけよう」★★★

みなさんには将来こんな人になりたい、こんな生き方をしたいという夢があるでしょう。もちろん保育者という目の前の目標を実現するために、毎日努力をしていると思いますが、自分一人の考えや経験で生きていくのは難しい時もあります。そんな時は具体的に憧れの人や素敵な生き方をしているお手本となる人を見つけるといいでしょう。

本を開いて、人生の先輩の教えに耳を傾けてみませんか？

(原真由美)



辰巳芳子『食に生きて 私が大切に思うこと』新潮社 2015

ただの料理研究家ではありません！ なんと 93 歳、他人にもそして自分にとっても厳しい人です。人間の身体は食べたものからできていると「食」の大切さを伝え続けます。「満腹になればなんでもいい」はとても危険。口から入るものは思考にも影響するものですから。

神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房 2004

精神科医として、長い間ハンセン病患者の心に寄り添い、診療にあたった神谷美恵子。この本は、社会から離されて苦しむ、まったくの無名の人たちの生き方に光をあてたもの、限りない生命の輝きが見えます。



日経ウーマン編『妹たちへ：夢をかなえるために』日本経済新聞社 2005

作家、俳優などの女性たちが、仕事を始めた頃の体験を、進路に迷うみなさんに向けて語った本。目の前のことに誠実に向き合っていれば、選んだ仕事への誇りを感じられる日がいつかくることを教えてくれます。



〈凜とした生き方を〉

須賀敦子・松山巖『須賀敦子が歩いた道』新潮社 2009

志村ふくみ『語りかける花』人文書院 1992

由里幸子『幸田文』新典社 2003



〈弱き人に寄り添う〉

ベッキー・ベネネイト編『マザー・テレサ 愛のこころ最後の祈り』主婦の友社 2010

永井隆『長崎の鐘』サンパウロ 1995

石牟礼道子・藤原新也『なみだふるはな』河出書房新社 2014



〈子どもの本のために生きた人〉

尾崎真理子『ひみつの王国 評伝石井桃子』新潮社 2014

まど・みちを『絵をかいていちんち』新潮社 2011

今江祥智『長新太が好き。』PHP 研究所 2008